

史跡加曽利貝塚総括報告書 第2分冊 正誤表

No. 1

正誤箇所	誤	正
本文目次 第4章第4節	11 玉……………529	11 玉類……………529
本文目次 第5章第3節	5 南外縁部(史跡整備・第1調査区) 出土人骨…646	5 南外縁部(史跡整備・第1調査区) 出土人骨…648
本文目次 第5章第3節	6 南貝塚出土人骨……………648	6 南貝塚出土人骨……………649
挿図目次 第4章 4-1図	29号住居跡とC貝層出土の主な土器	北貝塚2区 29号住居跡と〈C貝層〉 出土の主な土器
挿図目次 第6章第3節 3-21図	都川・村田川流域後期貝塚群の魚類 組成の魚類組成	都川・村田川流域後期貝塚群の魚類 組成
429頁 上から9行目	3-1表~16表	第3章3-1表~3-10表
429頁 下から18行目	東京帝国大学人類学研究室	東京帝国大学人類学教室
429頁 下から9行目	(4-1図1~9~30)	(4-1図9~30)
429頁 下から7行目	序-1表中に	序章序-1表中に
429頁 下から7行目	「勝坂式・阿玉台式末／加曽利E I 古」	「勝坂・阿玉台式末／加曽利E I 初」
429頁 下から5行目	3-29図1~32図63	3-29図1~3-32図63
429頁 下から5行目	3-32図64~33図95	3-32図64~3-33図95
430頁 上から7行目	「勝坂・阿玉台式末／加曽利E I 古」	「勝坂・阿玉台式末／加曽利E I 初」
435頁 上から9行目	半截した円筒状工具	半截した円筒状工具
437頁 下から15行目	参考文献	引用・参考文献
438頁 上から4行目	千葉県加曽利貝塚博物館	千葉市立加曽利貝塚博物館
438頁 上から8行目	土曜考古23号	『土曜考古』23号 土曜考古学研究会
440頁 章見出し	第3章 各調査の内容	第4章 遺物
441頁 章見出し	第3章 各調査の内容	第4章 遺物
442頁 上から2行目	4-4~7図	4-4~4-6図
442頁 下から14行目	50は唯一全体が復元できる土器で	53は唯一全体が復元できる土器で
442頁 下から9行目	杉山寿栄男『日本原始工芸』	杉山寿栄男編『日本原始工芸』
445頁 挿図番号	4-3図 赤彩土器(3)	4-6図 赤彩土器(3)
446頁	引用・参考文献 ※加曽利貝塚に関わる文献は巻末資料6にまとめて掲載 杉山寿栄男編 1928 『日本原始工芸』	
448頁 上から5行目	土器片鍾955点、土器片鍾955点	土器片鍾955点
448頁 上から11行目	4-8~15図	4-8~4-15図
448頁 下から10行目	顔部前面に刺突を加える例	顔部面に刺突を加える例
448頁 下から8行目	栃木県思案橋遺跡	茨城県思案橋遺跡
449頁 上から1行目	顔部前面に充填刺突文を加える例	顔面に充填刺突文を加える例
449頁 上から3行目	千葉県境貝塚	芝山町境貝塚
449頁 上から4行目	中沢貝塚	鎌ヶ谷市中沢貝塚
449頁 上から6行目	埼玉県原ヶ谷戸出土例	埼玉県原ヶ谷戸遺跡出土例
449頁 下から15行目	千葉市・佐倉市吉見台A遺跡・居合台 遺跡・茨城県思案橋遺跡等の	佐倉市吉見台A遺跡・芝山町居合台 遺跡・茨城県思案橋遺跡等の
449頁 下から10行目	112号住居跡(大型住居)	112号住居跡(大型住居跡)
457頁 下から3行目	4-17図・18図	4-17図・4-18図
462頁 上から6行目	東京都なすな原例は	東京都なすな原遺跡例は
462頁 下から16行目	4-24~33図、付表4-9~11、	4-24~4-33図、付表4-9~4-11、
462頁 下から5行目	阿玉台式2点、加曽利E式前半289点、 同後半4点	中期前半2点、中期中葉289点、中期 中葉~後葉52点、中期後葉4点
466頁 下から18行目	4-34・35図、付表4-12・13	4-34・4-35図、付表4-12・4-13
479頁 上から19行目	観察事項はいずれ当てはまる	観察事項はいずれも当てはまる
479頁 註4 2行目	『栃木県立博物館研究紀要』	『栃木県立博物館研究紀要』
479頁 註4 3行目	栃木県立博物館	栃木県立博物館
480頁 註8	芝山町境遺跡	芝山町境貝塚
480頁 註12 1行目	貝塚博物館紀要 第11号	『貝塚博物館紀要』第11号 千葉市立 加曽利貝塚博物館
480頁 註14 1行目	岩版・土版の身体表現について	岩版・土版の身体表現について
480頁 註14 2行目	馬淵川流域における岩版・土版	馬淵川流域における岩版・土版
480頁 註16	『貝塚博物館紀要』第31号	『貝塚博物館紀要』第31号 千葉市立 加曽利貝塚博物館
480頁 註19	設楽博巳	設楽博己
480頁 註20 1行目	秦野市大岳院遺跡	秦野市大岳院遺跡
480頁 註20 3行目	足付土器	脚付土器

史跡加曽利貝塚総括報告書 第2分冊 正誤表

No. 2

正誤箇所	誤	正
480頁 註20 3行目	底面まで擦り消し縄文を施している。	底面まで磨消縄文を施している。
480頁 註20 4行目	台付異形土器	異形台付土器
480頁 註22 2行目	伊知波良 4号。	『伊知波良』4号 伊知波良刊行会。
480頁 註22 2行目	長野県考古学会誌32号22。	『長野県考古学会誌』32号 長野県考古学会。
480頁 註23 1行目	古代文化 59 巻IV号。	『古代文化』第59巻第4号 (財)古代学協会。
480頁 註23 1行目	月刊文化財326号。	『月刊文化財』326号 第一法規。
480頁 註23 2行目	常総台地 15号。	『常総台地』15号 常総台地研究会。
480頁 註23 2行目	沼南町史研究 7号。	『沼南町史研究』7号 沼南町教育委員会。
480頁 註24 1行目	「なすな原遺跡-No 1 地区-」	『なすな原遺跡-No. 1 地区-』
481頁 上から2行目	4-5表に製品類を	4-5表に石器・石製品を
481頁 上から3行目	合計1,761点	合計1,829点
481頁 上から3行目	玉19点	玉類19点
481頁 上から7行目	以上の製品類に	以上の石器・石製品に
481頁 4-5表	(表の差替え)	別紙記載
482頁 上から17行目	4-36・37図	4-36・4-37図
482頁 上から19行目	1遺構からまとまって	一つの遺構からまとまって
482頁 下から1行目	ベンガラを検出している。	ベンガラが検出されている(小澤・永嶋2012)。
485頁 上から1行目	4-38~41図	4-38~4-41図
485頁 4-7表	(表の差替え)	別紙記載
485頁 下から16行目	4-42~57図	4-42~4-57図
485頁 下から16行目	付表5-1・2	付表5-1・5-2
485頁 下から10行目	抽出されたものは619点である。	抽出されたものは623点である。
485頁 下から6行目	遺構出土は27点・4.4%	遺構出土は27点・4.3%
490頁 4-8表 A	(表の差替え)	別紙記載
507頁 上から3行目	(4-28表)	付表5-2
507頁 上から6行目	4-58~60図、4-9~10表	4-58~4-60図、4-9~4-10表
507頁 上から7行目	全部で121点あり、	全部で122点あり、
507頁 4-9表	(表の差替え)	別紙記載
507頁 上から18行目	遺構出土は6点・5.0%	遺構出土は6点・4.9%
507頁 上から18行目	112号住居跡(大型建物跡)	112号住居跡(大型住居跡)
507頁 下から17行目	82点・68.3%	82点・67.3%
507頁 下から16行目	4-22表	4-9表
511頁 上から4行目	石皿から	石皿・台石から
511頁 上から11行目	4-61~67図	4-61~4-67図
511頁 上から12行目	全部で305点出土しており、	全部で309点出土しており、
511頁 上から12行目	石皿が198点、台石が71点、	石皿が201点、台石が72点、
511頁 上から14行目	遺構出土は22点・7.2%	遺構出土は22点・7.1%
511頁 上から17行目	欠損率は96.7%	欠損率は96.8%
511頁 4-11表	(表の差替え)	別紙記載
519頁 4-12表	(表の差替え)	別紙記載
519頁 上から9行目	4-68~70図	4-68~4-70図
519頁 下から15行目	14点ある。	21点ある。
519頁 下から1行目	4-62~74図	4-72~4-74図
526頁 4-74図 50	(72・73号住)	(72・73号住) 『報告Ⅱ』より転載 昭和51年発生の盗難で未回収
527頁 上から1行目	全部で100点あり、	全部で110点あり、
527頁 上から2行目	加工・使用の認められない272点については(2)に集計結果を示した。	他に加工・使用の認められないものが272点ある。
527頁 上から2行目	穿孔品48点	穿孔品49点
529頁 上から1行目	11 玉	11 玉類
529頁 上から1行目	4-75・76図	4-75・4-76図
529頁 上から3行目	ヒスイの剥片類6点	ヒスイの石核・剥片類6点
529頁 上から4行目	ヒスイの丸玉2点	ヒスイ製の丸玉2点
529頁 上から4行目	大型建物跡	大型住居跡
529頁 下から19行目	4-77~79図	4-77~4-79図

史跡加曽利貝塚総括報告書 第2分冊 正誤表

No. 3

正誤箇所	誤	正
529頁 下から18行目	北貝塚15・東傾斜面20・南貝塚54・不明2である。	北貝塚15・東傾斜面20・南貝塚53・不明3である。
532頁 上から2行目	大型住居の床面から	大型住居跡の床面から
533頁 上から5行目	9点をその他の石製品とし、	12点を他の石製品とし、
536頁 4-13表	(表の差替え)	別紙記載
536頁 上から3行目	薄片類は1,319点あり、黒曜石804点、チャート460点が大半を占めている。	薄片類は1,436点あり、黒曜石853点、チャート516点が大半を占めている。
536頁 上から5行目	硬質頁岩13点、ガラス質黒色安山岩7点、メノウ・流紋岩・珪質頁岩各6点などがある	硬質頁岩14点、ガラス質黒色安山岩・流紋岩各7点、メノウ(白滝頁岩)・珪質頁岩・メノウ各6点などがある
536頁 下から2行目	4-27表	付表5-4
539頁 4-16表 下から10行目	玉	玉類
539頁 上から2行目	4-81~83図	4-81~4-83図
539頁 下から7行目	参考文献	引用・参考文献
539頁 下から5行目	研究連絡誌72、	『研究連絡誌』72
539頁 下から3行目	貝塚博物館紀要31	『貝塚博物館紀要』第31号 千葉市立加曽利貝塚博物館
539頁 下から2行目	貝塚博物館紀要32	『貝塚博物館紀要』第32号 千葉市立加曽利貝塚博物館
539頁 下から1行目	貝塚博物館紀要35	『貝塚博物館紀要』第35号 千葉市立加曽利貝塚博物館
539頁 下から1行目の下	(新規)	6 鈴木素行 2015 「緑泥片岩石剣ー関東地方西部における石剣の成立と展開ー」『考古学集刊』第11号 明治大学
540頁 上から3行目	373点を掲載した。	375点を掲載した。
540頁 上から4行目	不明が18点である。	不明が20点である。
540頁 上から17行目	4-84・85図	4-84・4-85図
540頁 上から18行目	49点ある	50点ある
540頁 上から18行目	獣・四肢骨 3	獣・四肢骨 4
540頁 下から4行目	ベンガラと朱である。	ベンガラと朱が検出されている(小澤・永嶋2012)。
540頁 4-17表	(表の差替え)	別紙記載
541頁 上から8行目	朱とベンガラを検出している。	朱とベンガラが検出されている(小澤・永嶋2012)。
541頁 下から12行目	4-86・87図	4-86・4-87図
543頁 4-85図 27	(赤彩)	(赤彩) 『報告Ⅱ』より転載 昭和51年発生の盗難で未回収
557頁 上から3行目	4-88・89図	4-88・4-89図
557頁 下から8行目	4-89~92図	4-89~4-92図
557頁 下から7行目	56点ある	57点ある
557頁 下から7行目	歯牙製11	歯牙製12
558頁 下から3行目	4-92~98図	4-92~4-98図
559頁 上から10行目	全体被熱黒編と光沢が顕著。	全体に被熱黒変と光沢が顕著。
560頁 上から7行目	骨製は40点ある。	骨製は55点ある。
560頁 下から5行目	4-99図~123図	4-99~4-123図
560頁 下から4行目	貝製品は全部で669点を数える。	貝製品は全部で675点を数える。
560頁 下から4行目	貝刃487点	貝刃489点
560頁 下から4行目	ヘラ状貝製品17点	ヘラ状貝製品19点
560頁 下から4行目	貝輪114点	貝輪115点
560頁 下から3行目	彩色・顔料付着貝 9点	彩色・赤色顔料付着貝10点
560頁 下から3行目	加工をもつ貝 8点	加工をもつ貝 9点
561頁 下から13行目	市川市向台	市川市向台貝塚
561頁 下から12行目	千葉市有吉北	千葉市有吉北貝塚
561頁 下から3行目	計12点が見つかった。	計11点が見つかった。
574頁 下から6行目	注目されるこの点に	注目される。この点に
575頁 4-19表 欄外	刃部範囲不明の122点	刃部範囲不明の106点

史跡加曽利貝塚総括報告書 第2分冊 正誤表

No. 4

正誤箇所	誤	正
575頁 下から8行目	中期の有吉北貝塚と、	中期の有吉北貝塚と共通し、
575頁 下から7行目	後寄りへの志向性は	後寄りへの指向性は
575頁 下から6行目	称名寺期までは	称名寺式期までは
587頁 上から14行目	206(同14)	206(同127-14)
587頁 4-20表 欄外下端	(新規)	摩擦範囲不明の1点は除いた。
587頁 下から1行目	北貝塚22点、南貝塚89点、その他3点の計114点	北貝塚21点、南貝塚75点、その他19点の計115点
589頁 下から6行目	4-124~125図	4-124~4-125図
590頁 上から4行目	4-125~127図	4-124~4-127図
590頁 上から19行目	4-127~130図	4-130図
590頁 4-21表	(表の差替え)	別紙記載
598頁 上から9行目	117は水磨の痕跡が顕著。	117は水磨の痕跡が顕著。
598頁 上から16行目	(3) 彩色・顔料付着貝	(3) 彩色・赤色顔料付着貝
598頁 下から7行目	アリソガイ型のA型	アリソガイ製のA型
599頁 下から18行目	4-134135図	4-134~4-135図
601頁 4-132図 図版説明	顔料付着貝	彩色・赤色顔料付着貝
604頁 最後	(新規追加) 引用・参考文献 1 小澤清男・永嶋正春 2012「加曽利貝塚出土赤彩資料の理化学的分析調査」『漆—その歴史と文化』千葉市立郷土博物館 2 忍澤成視 2002「貝製品—実験考古学的手法による縄文時代貝製品研究—」『季刊考古学』81 3 忍澤成視 2011「幻の貝を求めて—伊豆諸島におけるオオツタノハ製貝輪生産—」『貝の考古学』同成社、p.329図79写真 4 神沢勇一・川口徳次郎 1971「東京湾沿岸地域出土の貝刃について」『神奈川県立博物館研究報告』1-4 5 川口徳次郎 1999「貝製品」『向台貝塚資料図譜』市立市川考古博物館、pp.106-4-115 6 須賀川市立博物館 1986『首藤保之助(阿武隈考古館)考古資料:採集記録』第3号 7 東京人類学会会員一同 1915「下総国千葉郡加曽利貝塚発掘(口絵説明)」『人類学雑誌』30-11、p.432 8 西野雅人 2002「縄文時代中・後期のヘラ状貝製品(1)」『研究連絡誌』62 千葉県文化財センター 9 西野雅人 2004「縄文時代中・後期のヘラ状貝製品(2)」『往還する考古学 近江貝塚研究会論集』1 10 西野雅人 2007『千葉東南部ニュータウン37—千葉市六通貝塚—』千葉県教育振興財団 11 堀越正行 1983「貝器」『縄文文化の研究7 道具と技術』雄山閣 12 村田六郎太 2013「加曽利貝塚出土貝刃の基礎的修正」『貝塚博物館紀要』40、pp.37-47	
605頁 上から6行目	2などが該当する。	4-80図2などが該当する。
606頁 4-22表 No.10観察結果	塊状灰が内外面に付着	塊状灰が土器片の内外面に付着
606頁 下から8行目	住居址を発見している。」	住居址を発見している。」(伊藤1959)
607頁 最後	(第5節の引用・参考文献を削除) 引用・参考文献 1 伊藤和夫 1959「千葉県の石器時代文化」『千葉県石器時代地名表』 2 小林義典・中村哲也他 2014『大膳野南貝塚発掘調査報告書』国際文化財・玉川文化財研究所共同企業体	
608頁 上から4行目	杉山寿栄男による『日本原始工芸』・『日本原始文様』等の	杉山寿栄男による『原始文様集』(杉山1923~1924)・『日本原始工芸』(杉山編1928)等の
608頁 上から17行目	杉山1928、	杉山編1928、
608頁 上から18行目	4-139・140図	4-139・4-140図
608頁 下から14行目	『千葉県の歴史 資料編 考古4(遺跡・遺構・遺物)』に	『千葉県の歴史 資料編 考古4(遺跡・遺構・遺物)』(山崎2004・忍澤2004)に
608頁 下から14行目	杉山(1928)に	杉山編(1928)に

史跡加曽利貝塚総括報告書 第2分冊 正誤表

No. 5

正誤箇所	誤	正
609頁 下から5行目	『地底探検記』	『地底探検記』(江見1907)
610頁 上から3行目	『日本原始工芸』(杉山 1927)	『日本原始工芸』(杉山編1928)
610頁 上から4行目	『日本原始文様集』	『原始文様集』(杉山1923～1924)
610頁 上から17行目	『日本先史土器図譜』	『日本先史土器図譜』(山内1967)
610頁 上から20行目	4-138・143・144図	4-138・4-143・4-144図
610頁 上から21行目	『日本原始工芸』	『日本原始工芸』(杉山編1928)
610頁 上から23行目	『日本原始工芸』	『日本原始工芸』(杉山編1928)
610頁 上から28行目	(甲野1931)。	(甲野1941)。
610頁 下から6行目	伊藤和夫氏による『千葉県石器時代遺跡地名表』に	『千葉県石器時代遺跡地名表』(平野・伊藤・金子編 1959)に
610頁 下から5行目	菊池実	菊池健一
620頁 参考文献リスト3	杉山寿栄男 1927	杉山寿栄男編 1928
620頁 参考文献リスト23	首藤保之助 1986	須賀川市立博物館 1986
620頁 下から3行目	史前学会小報 2	『史前学会小報』2
620頁 下から2行目	史前学雑誌 第2巻第3号	『史前学雑誌』第2巻第3号
620頁 下から2行目	史前学雑誌 第7巻第3号	『史前学雑誌』第7巻第3号
621頁 下から18行目	研究紀要38号	『貝塚博物館紀要』第38号
621頁 下から11行目	体調組成	部位組成
621頁 下から3行目	『貝塚博物館紀要39・41』	『貝塚博物館紀要』第39号・第41号
624頁 下から8行目	140号土坑(3-246・253図)	140号土坑(3-246・3-253図)
635頁 上から8行目	及び阿玉台類似土器が、	及び阿玉台式類似土器が、
635頁 上から17行目	13個体(No.1～13)で、	12個体(No.1～13、うちNo.9は欠番)で、
635頁 下から7行目	(1図B・2図A)	(削除)
637頁 下から19行目	男女各2体と少年1体となる。	男女各2体と若年1体となる。
637頁 下から16行目	住居跡観覧施設建設に伴う	住居跡群観覧施設建設に伴う
640頁 下から19行目	住居跡観覧施設建設に伴う	住居跡群観覧施設建設に伴う
644頁 下から16行目	点挙げされた骨	出土位置のわかる骨
648頁 上から17行目	点挙げされた人骨	出土位置のわかる人骨
648頁 下から14行目	堀之内期の深い小竪穴	堀之内式期の深い小竪穴
649頁 下から15行目	22～27・29は若年～成人、	25～27・29は若年～成人、
650頁 上から7行目	既報告Ⅱ第25表(後藤 1976d)に	『報告Ⅱ』第25表に
650頁 上から10行目	既報告Ⅱ図版34の	『報告Ⅱ』図版34の
652頁 下から19行目	加工品(骨角歯牙製品付表306)	加工品(付表6 K01-306)
655頁 下から10行目	概報に記載がある	『平成元年度 史跡加曽利貝塚環境整備に伴う事前調査概報』(以下、『事前調査概報』)に記載がある
655頁 下から9行目	『事前調査概報』では	『事前調査概報』(千葉市教育委員会文化課1990)では
658頁 上から1行目	『事前調査概報』に	『事前調査概報』(千葉市教育委員会文化課1990)に
658頁 上から10行目	人骨の研究(木村 2001)	『加曽利貝塚出土人骨の総合調査』(木村 2001)
658頁 上から16行目	(5-16・17図)	(5-16・5-17図)
659頁 上から6行目	紀要40(4)	『貝塚博物館紀要』第40号(4)
659頁 上から18行目	90年概報に	『事前調査概報』(千葉市教育委員会文化課1990)に
659頁 下から10行目	紀要40(小宮 2013)	『貝塚博物館紀要』第40号(小宮2013)
659頁 下から7行目	紀要40(1)	『貝塚博物館紀要』第40号(1)
659頁 下から6行目	紀要40(2)	『貝塚博物館紀要』第40号(2)
659頁 下から5行目	紀要40(3)	『貝塚博物館紀要』第40号(3)
659頁 下から4行目	紀要40	『貝塚博物館紀要』第40号
674頁 上から8行目	鎌ヶ谷市	鎌ヶ谷市
675頁 上から20行目	鎌ヶ谷市	鎌ヶ谷市
697頁 上から14行目	千葉市教育委員会に保管	千葉市埋蔵文化財調査センターに保管
697頁 上から22行目	(2-1～9表)	(2-1～2-9表)
716頁 上から19行目	千葉市埋蔵文化財センター	千葉市埋蔵文化財調査センターに保管
722頁 下から2行目	順となる。の組成は、	順となる。この組成は、

史跡加曽利貝塚総括報告書 第2分冊 正誤表

No. 6

正誤箇所	誤	正
733頁 上から5行目	選択敵に持ち込まれた	選択的に持ち込まれた
743頁 上から9行目	(黒住1994・2014b等)	(黒住1994・2014等)
744頁 上から4行目	参考文献	引用・参考文献
772頁 上から6行目	『貝塚博物館紀要第39号』	『貝塚博物館紀要』第39号
772頁 上から7行目	同『紀要41号』	『貝塚博物館紀要』第41号
772頁 上から13行目	3-23~24図)	3-23~3-24図)
772頁 3-23図	NISP (N=511)	NISP (N=512)
772頁 下から5行目	イノシシ374点(73%)	イノシシ375点(73%)
773頁 3-24図	④:Ⅱ西(N=35)	④:Ⅱ西(N=36)
774頁 下から10行目	3-25~26図)	3-25~3-26図)
777頁 下から6行目	考古学と自然科学13	『考古学と自然科学』13
777頁 下から3行目	日本獣歯学雑誌39	『日本獣歯学雑誌』39
783頁 下から12行目	季刊考古学 別冊21	『季刊考古学』別冊21
783頁 下から11行目	考古学ジャーナル303	『考古学ジャーナル』303
783頁 下から10行目	千葉県立中央博物館 1	『千葉県立中央博物館研究報告 人文科学』1
783頁 下から9行目	貝塚博物館紀要40	『貝塚博物館紀要』40
783頁 下から7行目	人類学雑誌92(3)	『人類学雑誌』92(3)
783頁 下から5行目	動物考古学25	『動物考古学』25